



第102期 中間報告書

2019年4月1日から2019年9月30日まで



トップインタビュー

**既存中核事業を強化するとともに、
さらなる事業領域の拡大を目指します。**

伊藤忠食品株式会社

証券コード：2692



既存中核事業を強化するとともに、 さらなる事業領域の拡大を目指します。

株主の皆様におかれましては、日頃より当社グループ事業への厚いご支援を賜り、誠にありがとうございます。

また、豪雨、台風などの自然災害により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧、復興をお祈り申し上げます。

2019年度(第102期)第2四半期累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)の概況をご報告するとともに、通期の見通しについてご説明いたします。

2019年11月

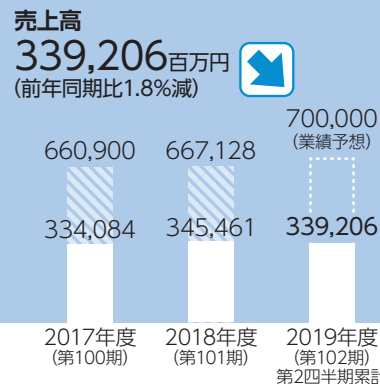
代表取締役社長
社長執行役員

岡本均

企業理念

常に時代の変化と要請を先取りし、
健康で豊かな食生活創りを通じて
消費者と社会に貢献します

◆ 連結決算ハイライト (単位:百万円)



2019年度第2四半期までの経営成績

食品流通業界では、実質賃金の伸び悩み等の影響により消費者の生活防衛意識・節約志向が依然として強く、業種・業態の垣根を越えた競争の激化や人手不足に伴う労働コストの上昇並びに物流費の高騰を受け、引き続き厳しい事業環境となりました。

このような状況のなか、第2四半期までの経営成績は、組織小売業との取引深耕を推し進めたことや消費増税前の駆け込み需要などによる取引増加が発生したものの、夏場の天候不順により「ビール」「嗜好・飲料」の販売が伸び悩んだことや、前年下期から一部取引が減少した影響を受け、売上高は計画を下回り、減収となりました。

かしながら、利益面におきましては、赤字取引の改善や販売費及び一般管理費の削減効果等により、営業利益以下の利益項目において、計画を上回りました。

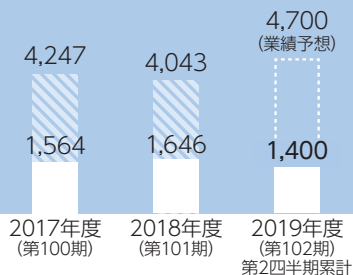
以上の結果、連結業績は、売上高3,392億6百万円(前年同期比1.8%減)、営業利益14億円(同14.9%減)、経常利益19億23百万円(同7.0%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益13億2百万円(同7.0%減)となりました。

■第2四半期累計 ■通期

詳細はP7-8をご覧ください。

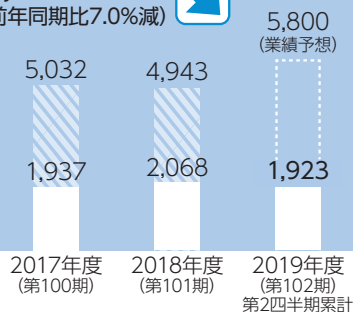
営業利益

1,400百万円
(前年同期比14.9%減)



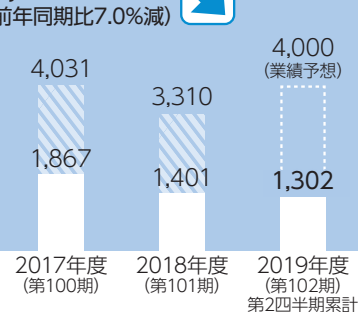
経常利益

1,923百万円
(前年同期比7.0%減)



親会社株主に帰属する四半期純利益

1,302百万円
(前年同期比7.0%減)



(注) 第102期より百万円未満を四捨五入で記載しております。なお、第101期以前についても、同様の記載に変更しております。

重点戦略の進捗状況

2019年度は、『進化』と『成長』をミッションに掲げ、「既存中核事業の拡大・深耕」、「事業領域の拡大および、新規ビジネスへの積極投資」、「企業価値向上に向けた取り組み」の3つのテーマに重点的に取り組んでいます。

「既存中核事業の拡大・深耕」においては、卸機能の強化による基礎収益力の向上や低重心経営を進めたことに加えて、前年度に資本参加した菓子卸コンフェックスホールディングス(株)との物流協業や販路の相互活用、商品開発などに取り組みました。第3四半期以降も、既存中核事業の拡大・深耕に最優先で取り組むとともに、コンフェックスグループとのシナジー発揮に向けた案件の具体化を推し進めます。

「事業領域の拡大および、新規ビジネスへの積極投資」においては、2019年7月に、「DELISH KITCHEN」等のレシピ動画サイトを運営する(株)エブリーと資本・業務提携をし、店頭デジタルサイネージを中心とした集客・販促支援の提案を進めております。8月には、液体急速凍結機「凍眠」を製造・販売する(株)テクニカンと業務提携を締結しました。当社グループとテクニカンは、共同で立ち上げた高品質冷凍食品ブランド「凍眠市場」の販売推進や、「凍眠」の技術を活用することで、生鮮食材の通年安定供給に向けた取り組みを進めます。

「企業価値向上に向けた取り組み」では、国が推し進める「ホワイト物流」への賛同や、食品ロス削減に向けた取り組みを進めています。具体的には、物流センターにおけるド

ライバー待機時間短縮に向けた取り組みや、フードシェアリングプラットフォーム「TABETE」を運営する(株)コックキングへの出資などが挙げられます。ガバナンス面では独立社外取締役の増員や、女性取締役の登用を行いました。今後も、本業を通じたESG/SDGsへの対応や企業価値向上を目指し、さらに取り組んでまいります。

通期業績の見通しと利益還元について

第3四半期以降は、第2四半期より増加した取引が本格的に寄与し始めることに加えて、引き続き赤字取引の改善など収益力の強化を進めてまいります。10月からの消費増税による影響については、9月に酒類の駆け込み需要が一部生じ、反動の見通しがやや不透明であるものの、過去の増税時ほどの落ち込みはないと予想しています。

以上のことから、通期業績については期初の計画を変更せず、売上高7,000億円(前期比4.9%増)、営業利益47億円(同16.3%増)、経常利益58億円(同17.3%増)、親会社株主に帰属する当期純利益40億円(同20.9%増)を見込んでいます。

なお当第2四半期末の配当は、予定通り1株当たり37円50銭とさせていただきます。期末配当予想の37円50銭と合わせて、年間配当額75円(前期同額)を計画しています。

株主の皆様におかれましては、引き続き長期的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

経営ビジョン

『価値』を追求し、『信頼』される
グッド・カンパニーへ

2019年度(第102期)ミッション

『進化』と『成長』

2019年度(第102期) 連結業績予想

売上高	7,000億円
営業利益	47億円
経常利益	58億円
親会社株主に帰属する 当期純利益	40億円

NEWS
— ニュース —当社国内独占販売ワイン「ベルルッキ」が
『Gambero Rosso』最高賞受賞!

当社が国内での独占販売契約を結んでいる「フランチャコルタ」のパイオニア・ベルルッキがイタリアワインの評価本『Gambero Rosso(ガンベロ・ロツン)』のスパークリング部門最高賞「BOLLICINE DELL'ANNO」を受賞しました。

受賞したワインは、クリーミーな泡と表情豊かで複雑な香り長い余韻が特徴の「ベルルッキ '61 ナチュレ」。今後も一人でも多くのベルルッキファンを増やすべく、導入店舗の拡大とブランド価値の更なる向上に努めてまいります。



『Gambero Rosso(ガンベロ・ロツン)』

ガンベロ・ロツンは、最も著名で権威のあるイタリアワインの評価本です。毎年、イタリア全国から寄せられたワインをテイスティングし、10月下旬に翌年版として評価が発表され、その評価は最大3つまでのグラスの数で表示されます。今回受賞した最高賞「BOLLICINE DELL'ANNO」はガンベロ・ロツンに掲載された約22,000本のイタリアワインの中で、その年、最も優れたスパークリングワイン1種類にのみ贈られるものです。

当第2四半期累計期間の主なトピックス

当社は事業領域の拡大に向け、新しいビジネスに積極的に取り組んでいます。



株式会社エブリーと資本・業務提携

店頭デジタルサイネージを中心とした集客・販促支援で協業

当社は、「DELISH KITCHEN」など動画メディア事業を展開する株式会社エブリーと資本・業務提携をし、同社が展開する店頭デジタルサイネージを中心とした「リテールサポートプログラム」の提案を進めています。「リテールサポートプログラム」は、売場と連動したレシピ動画の放映に加え、小売業のチラシ情報の発信、レシピカードデータの提供、効果検証のフィードバックなど売場の活性化につながるオプションを揃えています。この取り組みを通じて、小売業の店頭販促や送客施策のデジタル化の推進と、メーカー商品の認知から販促強化までを支援するサービスを展開してまいります。

売場の活性化につながるサポート

- 売場と連動したレシピ動画放映
- アプリユーザーへの小売店のチラシ情報発信



「DELISH KITCHEN」アプリのダウンロードはこちらから
App Store Google Play



株式会社テクニカンと業務提携

液体急速凍結の技術を活用した冷凍食品ブランド「凍眠市場」の販売を促進

当社は、株式会社テクニカンとの業務提携契約を通じて、共同で立ち上げた冷凍食品ブランド「凍眠市場」の認知度向上・流通拡大を推進するとともに、鮮度を長期間維持できる「凍眠」の技術を活用した生鮮食材の通年安定供給への取り組みを進めてまいります。



液体急速凍結機「凍眠」

「凍眠」の特徴

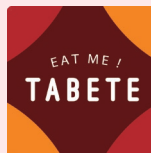
- 冷凍時間の短縮
- 食品の細胞を傷つけないため、解凍時に限りなく生に近い風味や食感を再現できる



株式会社コークッキングへ出資

フードシェアリングプラットフォーム「TABETE」を通じて食品ロス削減を支援

株式会社コークッキングの運営する「TABETE」は、まだ安全においしく食べることのできる売れ残りや廃棄予定の食品と買い手をつなぐサービス(アプリ)です。当社は、本出資を通じて食品廃棄の問題に積極的に関わるとともに新しいビジネス機会の創出等、幅広い分野での連携を図ります。



「TABETE」アプリのダウンロードはこちらから

App Store / Google Play



社外取締役インタビュー

当社3名の社外取締役のうち、2019年6月に新たに就任した奥田高子取締役にこれまでの経歴や当社の印象、社外取締役としての抱負についてお伺いしました。



社外取締役

奥田 高子

Okuda Takako

略歴

1979年 4月 サントリー株式会社入社
 2000年 4月 同社 ワイン事業部課長
 2003年 4月 同社 お客様コミュニケーション部
 東京お客様センター課長
 2005年 9月 東京電力株式会社入社
 同社 販売営業本部営業部
 ぐらしのラボグループマネジャー
 2008年 7月 同社 販売営業本部営業部部長兼
 ぐらしのラボグループマネジャー
 2014年 7月 同社 カスタマーサービス・
 カンパニーCS推進室長
 2016年 4月 東京電力エナジーパートナー
 株式会社CS推進室長
 2018年 4月 同社 CX推進担当
 2019年 6月 当社 社外取締役(現任)

○ これまでの経歴について

1979年にサントリー株式会社に入社し、11年間中央研究所で所長スタッフとして研究企画・管理に携わった後、ビールやワインの商品開発・マーケティングを担当、管理職に就いてからは出向先でe-ビジネスの立ち上げなどを行いました。2005年に東京電力株式会社に入社し、TEPCO銀座館の運営とともに、オール電化のPRや電気の上手な使い方・選び方を発信する「ぐらしのラボ」を担当しました。その後はおお客様の声を経営に活かす仕事に携わり、CS*1推進室長として東京電力グループのCS・CX*2を推進してきました。それぞれの会社は業界が異なり、企業風土も全く異なりますが、一貫してお客様視点で仕事をしてきました。この経験から、企業のコンピテンシーは「お客様をよく知ること」という点は共通だと感じています。

○ 伊藤忠食品の印象について

当社は、「食品卸」として130年以上もの歴史のある会社ですが、今まさに「動いている会社」だと感じています。卸としてのビジネスモデルの変革が求められる今、酒類を中心とした当社の得意分野を活かすとともに、これまで以上にマーケティング力や提案力が重要視されると考えています。社内の会議では、新しいビジネスモデルの構築やこれからの伊藤忠食品のありたい姿について、活発な議論を行っています。

○ 伊藤忠食品での社外取締役としての抱負

当社の社外取締役は、私が加わって3名になりました。社外取締役の独立性・重要性がこれまで以上に求められているため、身の引き締まる思いがしています。とはいえ気負いすぎることなく、疑問に感じたことは伺い、お客様視点に基づいて大切だと感じたことは、率直に意見を申し上げることで、当社の企業価値向上に貢献していきたいと考えています。

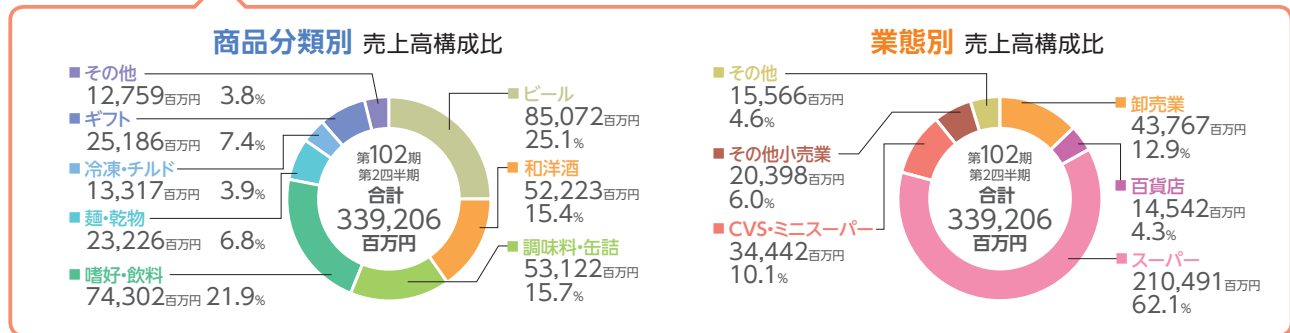
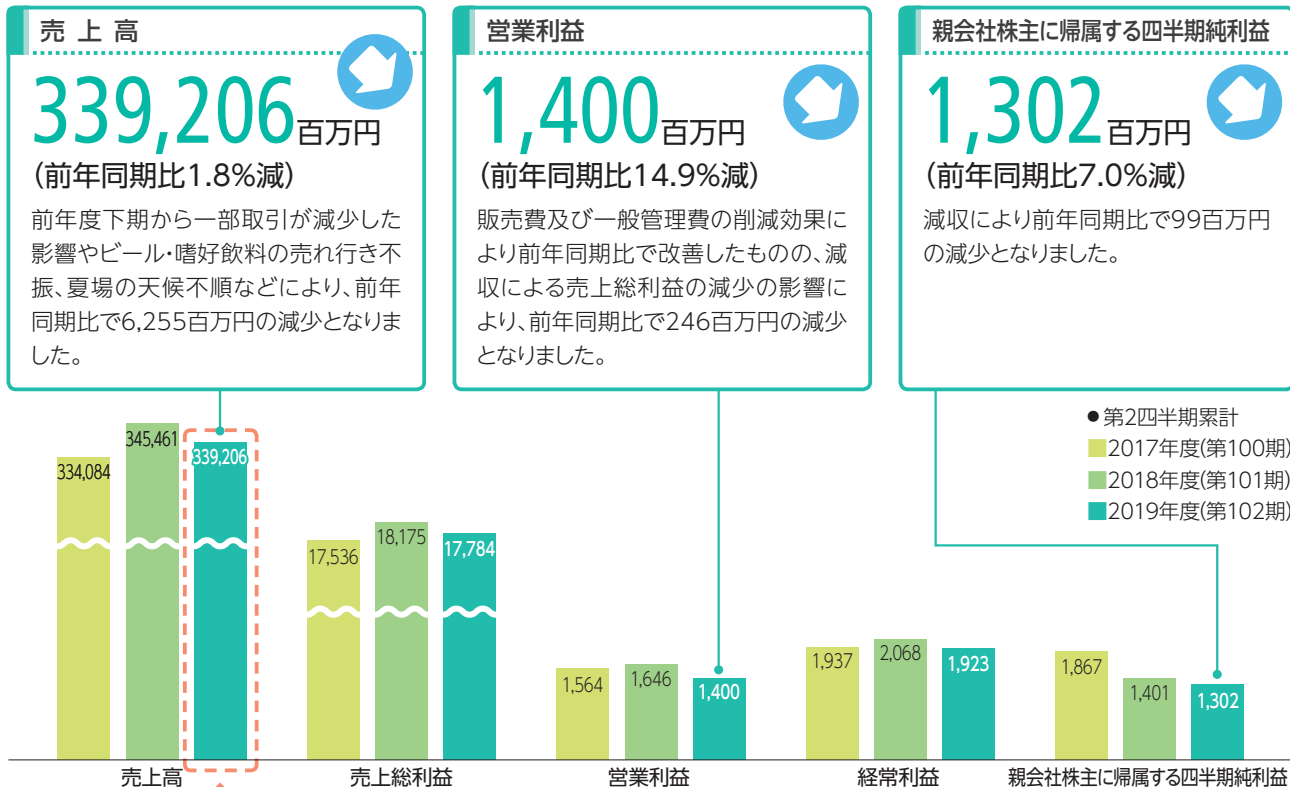
また、近年企業のSDGsへの取り組みが注目されています。当社が以前から取り組んでいる「商業高校フードグランプリ」も、地域食文化の継承や人材の育成といった点ではその一つと言えますし、さらに、環境負荷の削減やダイバーシティの推進なども重要な課題です。

コミュニケーションを大切にしながら、これまでの経験を活かしていきたいと思っております。

*1 CS: Customer Satisfaction *2 CX: Customer Experience

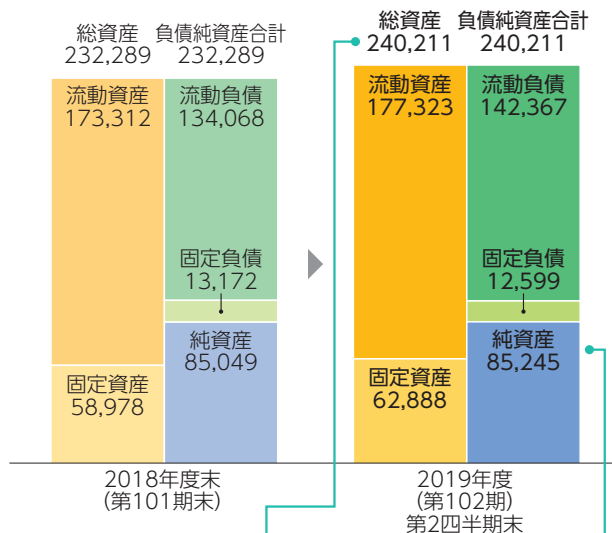
連結決算の概要

▶ 連結損益計算書の概要 (単位: 百万円)



(注)「ビール」には、発泡酒、ビール風アルコール飲料(第3のビール)の売上高を含んでおります。

▶ 資産、負債及び純資産の状況 (単位:百万円)



総資産

240,211

百万円

総資産は、2,402億11百万円となり、前期末に比べ79億22百万円の増加となりました。これは、前期の期末日休日要因がなくなったことによる減少と、季節変動要因等による増加の結果、売上債権が33億50百万円、未収入金が50億87百万円増加したことなどによるものであります。

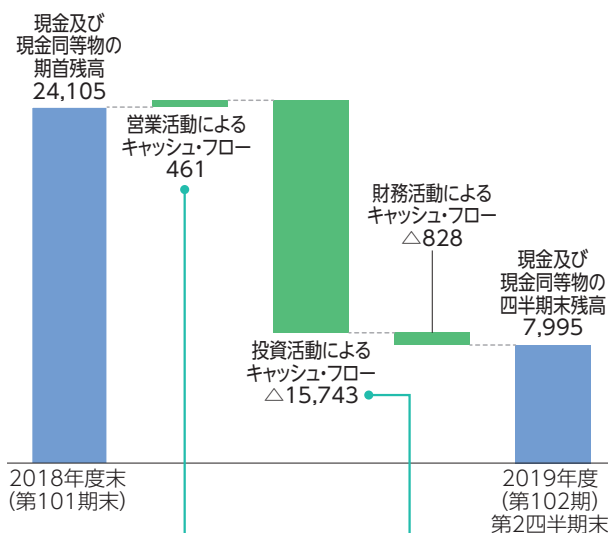
純資産

85,245

百万円

純資産は、852億45百万円となり、前期末に比べ1億95百万円の増加となりました。これは、利益剰余金が増加したことなどによるものであります。

▶ 連結キャッシュ・フローの状況 (単位:百万円)


 営業活動による
キャッシュ・フロー

461

百万円の収入

営業活動によるキャッシュ・フローは、4億61百万円の収入となり、前年同期と比べ77億98百万円の収入の減少となりました。これは、前年同期が期末日休日要因により増加したことの反動、及び当第2四半期連結会計期間に前期の期末日休日要因がなくなったことにより減少したことなどによるものであります。

 投資活動による
キャッシュ・フロー

15,743

百万円の支出

投資活動によるキャッシュ・フローは、157億43百万円の支出となり、前年同期と比べ154億98百万円の支出の増加となりました。これは、グループ預け金の増加による支出が100億円増加したこと及び投資有価証券の取得による支出が54億47百万円増加したことなどによるものであります。

(2019年9月30日現在)

商号 伊藤忠食品株式会社
 創業年月日 1886年2月11日(明治19年2月11日)
 設立年月日 1918年11月29日(大正7年11月29日)
 資本金 4,923,464,500円
 従業員数 連結1,185名 個別845名
 事業内容 酒類・食品の卸売およびそれに伴う商品の保管、
 運送ならびに各種商品の情報提供、商品流通に関する
 マーチャンダイジング等を主とした事業活動を展開。
 本店所在地 大阪市中央区城見2-2-22
 大阪本社
 〒540-8522 大阪市中央区城見2-2-22
 電話(06)6947-9811
 東京本社
 〒107-8450 東京都港区元赤坂1-2-7
 電話(03)5411-8511

役 員	
代表取締役社長・社長執行役員	岡本 均 常勤監査役** 姫野 彰
取締役・専務執行役員	大釜 賢一 監査役(非常勤)**増岡 研介
取締役・常務執行役員	川口 浩一 監査役(非常勤) 萩原 武
取締役・常務執行役員	河原 光男 監査役(非常勤) 太田 有哉
取締役・執行役員	大崎 剛 常務執行役員 酒井 健雄
取締役・執行役員	中島 聡 常務執行役員 角田 憲治
取締役(非常勤)*	橋本 健 執行役員 魚住 直之
取締役(非常勤)*	宮坂 泰行 執行役員 山村 芳幸
取締役(非常勤)*	奥田 高子 執行役員 大塚 剛
取締役(非常勤)	細見 研介 執行役員 田村 恭紹
	執行役員 小谷 信之

(注) *独立社外取締役 **独立社外監査役

子会社・関連会社 ■連結子会社 ■非連結子会社 ■関連会社

卸売業／■(株)スハラ食品 ■(株)中部メイカン
 ■コンフェッスホールディングス(株)
 投資事業／■ワイ&アイホールディングス(同)

小売業／■(株)宝来商店
 物流管理・運送業／■新日本流通サービス(株)
 サービス業／■ISCビジネスサポート(株) ■(株)アイ・エム・シー

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

基準日 定時株主総会 3月31日
 期末配当金 3月31日
 中間配当金 9月30日

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社

特別口座の
 口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) 電話 0120-782-031(フリーダイヤル)

取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

公告方法 電子公告の方法により行います。ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

* 公告掲載の当社ホームページアドレス

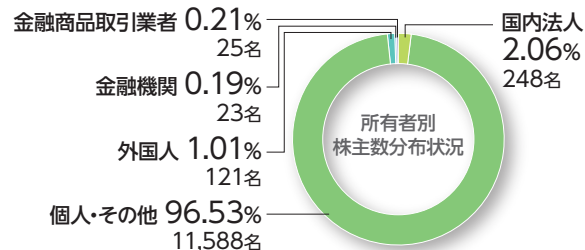
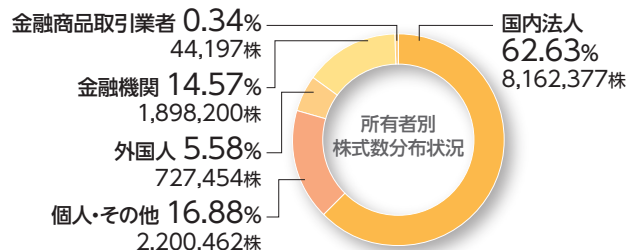
<https://www.itochu-shokuhin.com/>

単元株式数 100株

証券コード 2692

(2019年9月30日現在)

発行可能株式総数 40,000,000株
 発行済株式の総数 13,032,690株
 株主数 12,005名



大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
伊藤忠商事(株)	6,620,316	52.18
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (三井住友信託銀行再信託分・アサヒビール(株)退職給付信託口)	815,000	6.42
味の素(株)	339,129	2.67
アサヒビール(株)	296,500	2.34
みずほ信託銀行(株)退職給付信託みずほ銀行口 再信託受託者資産管理サービス信託銀行(株)	249,300	1.96
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	231,900	1.83
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	198,900	1.57
伊藤忠食品 従業員持株会	132,000	1.04
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口5)	96,100	0.76
はごろもフーズ(株)	87,100	0.69

(注) 1 上記のほか、自己株式が345,337株あります。

2 持株比率は発行済株式の総数から自己株式数を控除して計算しております。

3 日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(三井住友信託銀行再信託分・アサヒビール(株)退職給付信託口)の所有株式は、アサヒビール(株)が所有していた当社株式を三井住友信託銀行(株)に信託したものが、日本トラスティ・サービス信託銀行(株)に再信託されたもので、議決権はアサヒビール(株)に留保されております。

4 みずほ信託銀行(株)退職給付信託みずほ銀行口再信託受託者資産管理サービス信託銀行(株)の所有株式は、(株)みずほ銀行が所有していた当社株式をみずほ信託銀行(株)に信託したものが、資産管理サービス信託銀行(株)に再信託されたもので、議決権は(株)みずほ銀行に留保されております。

ご案内

住所変更、
単元未満株式の
買取等のお申出先

証券会社に口座のある株主様 ▶ 株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

証券会社に口座がないため
特別口座を開設されました株主様 ▶ 特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式
会社にお申出ください。「配当金のお支払い」
について配当金領収証にてお受取りの
株主様 ▶ 「支払通知書」に替えて「配当金計算書」を同封いたして
おります。口座振込を指定されている株主様 ▶ 配当金支払いの際送付している「配当金計算書」が「支
払通知書」となります。

「配当金計算書」について

※確定申告をなされる株主様は大切に保管してください。

配当金支払いの際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」
を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付書類としてご使用いただくことができます。

未払配当金の支払いのお申出先

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

株主優待

3,000円
相当

厳選された約50種類の商品からお好きな商品をお選びいただけるギフトです。

毎年3月31日の株主名簿に記載または記録された単元株式数(100株)以上保有の株主様に、
当社オリジナルギフト商品をご賞味いただける株主優待を行っております。株主優待のご案内は6月を予定しております。

※優待商品は変更となる場合がございます。



ロースハム&つるし焼豚



水温熟成西京漬け詰合せ



辛子明太子(上切れ子)



余市フルーツシャーベット



京都センチュリーホテルアイス



鶴屋八幡 和菓子詰合せ

「商業高校フードグランプリ」
出場商品も優待に!!



学校法人 大牟田学園
大牟田高等学校
みっけ!高菜
まぜこみご飯の素



株主優待が届くまで

1

3月末

株主優待権利確定

2

6月下旬頃

株主総会後、配当金書類とともに株主優待をご郵送いたします。優待商品をお選びいただき、お申し込みください。

3

お届け

お選びいただいた優待商品がお手元に届きます。

ISC 伊藤忠食品株式会社

■ 大阪本社 〒540-8522 大阪市中央区城見2-2-22 電話 (06)6947-9811

■ 東京本社 〒107-8450 東京都港区元赤坂1-2-7 電話 (03)5411-8511

■ インターネットホームページURL <https://www.itochu-shokuhin.com/>

UD
FONT



本報告書は、環境保全のため、FSC®認証紙を使用して
植物油インクで印刷しています。